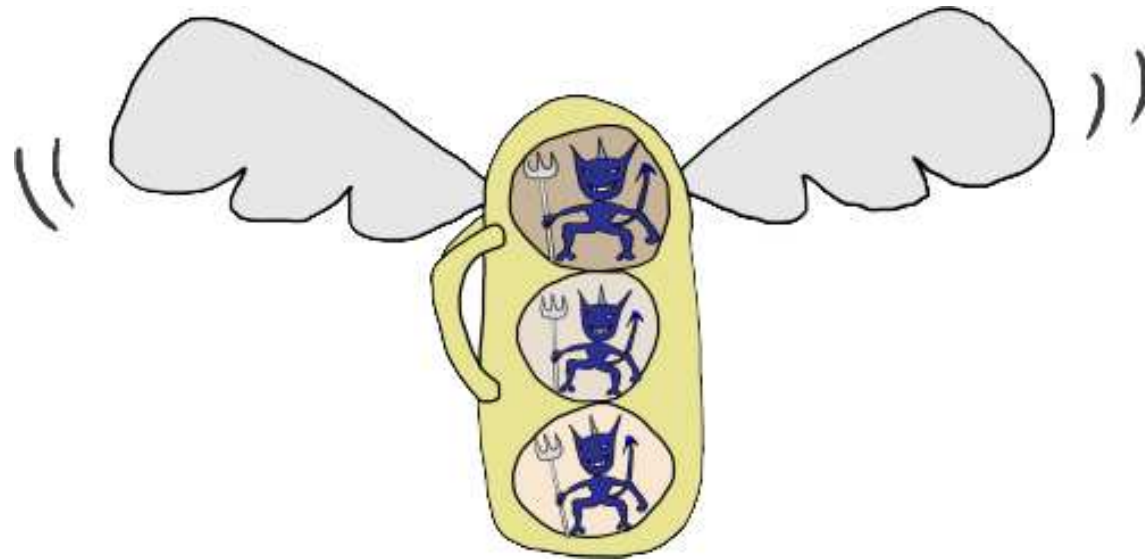


罪と罰のイメージ



東郷 潤

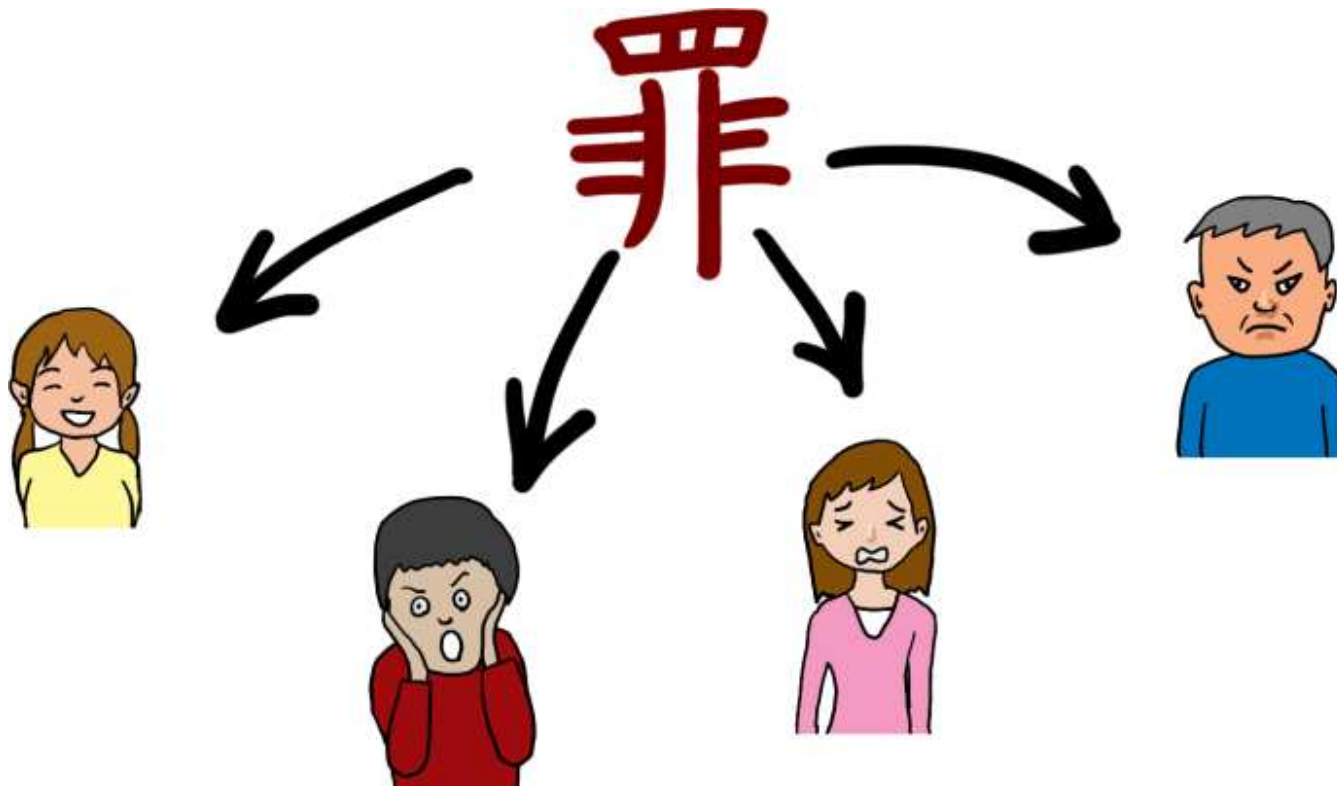
みなさんは**罪**に、どんなイメージを持っているでしょう？

罪



本当の**罪**とは何か？ . . . そんな難しい話ではありません。宗教的な真実や神様とも無関係な話です。

ただ単に人々が持つ、言葉のイメージの話です。



これが分かると**罪**という言葉が人間に与えるであろう、「心理的な効果」を推測できるのです。

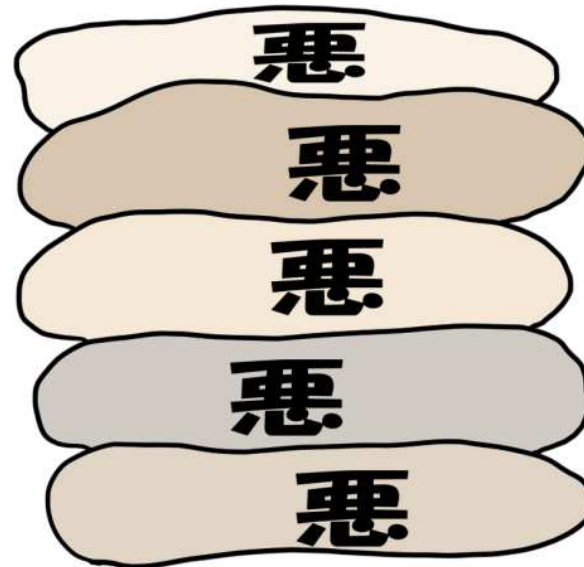
罪は悪と密接に関係した言葉、そんなイメージはありませんか。

悪 → 罪

もし悪という言葉が無ければ、罪という言葉は存在すらしないかも？

~~悪~~ → 罪

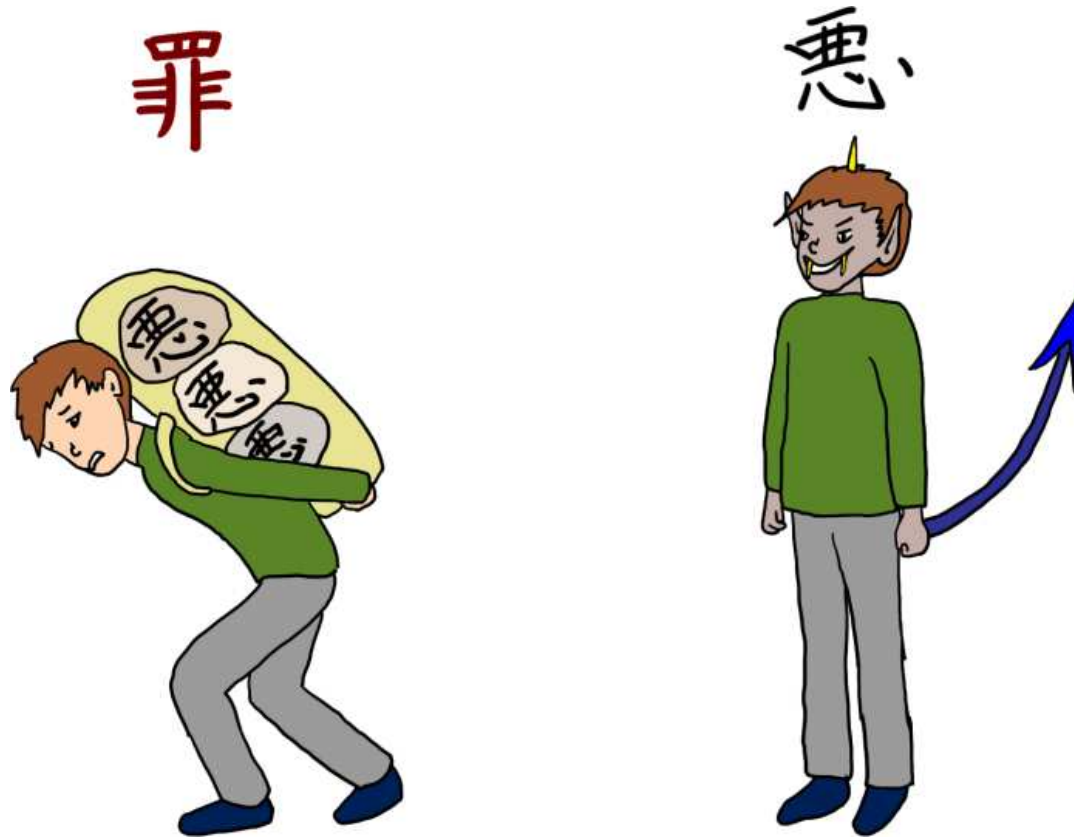
「**罪**はその人が積み重ねた悪」、そんなイメージも有りませんか？



実際、「奴は、悪そのもの」と言っても、「奴は、**罪**そのもの」とは言いません。人は悪になれても、**罪**にはなれないのかも知れません¹。

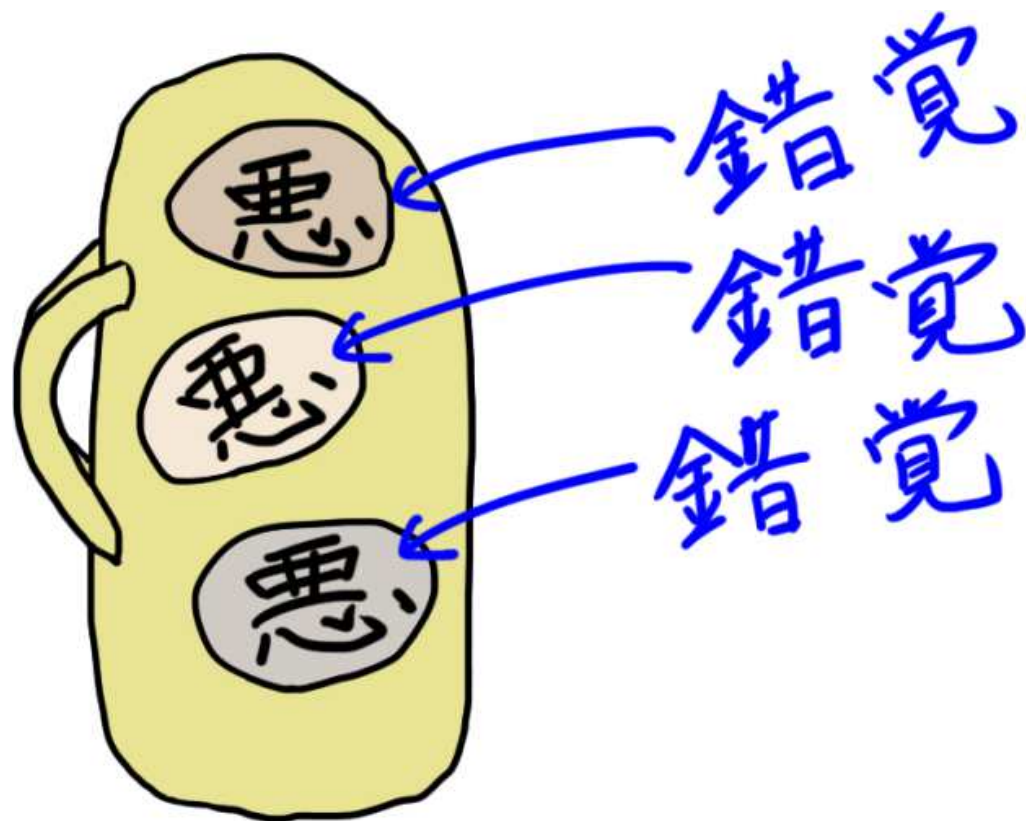
¹注 厳密な話ではありません。「罪深い人＝とても悪い人」というイメージも成立するでしょう。また原罪といえば、より人に近いイメージが生まれそうです。なお宗教的真理とは無関係な話ですので念のため。

罪には人が背負うものというイメージもありますね。一方で悪は背負うものではありません。悪は、**罪**よりも人・行為の本質というイメージでしょうか。



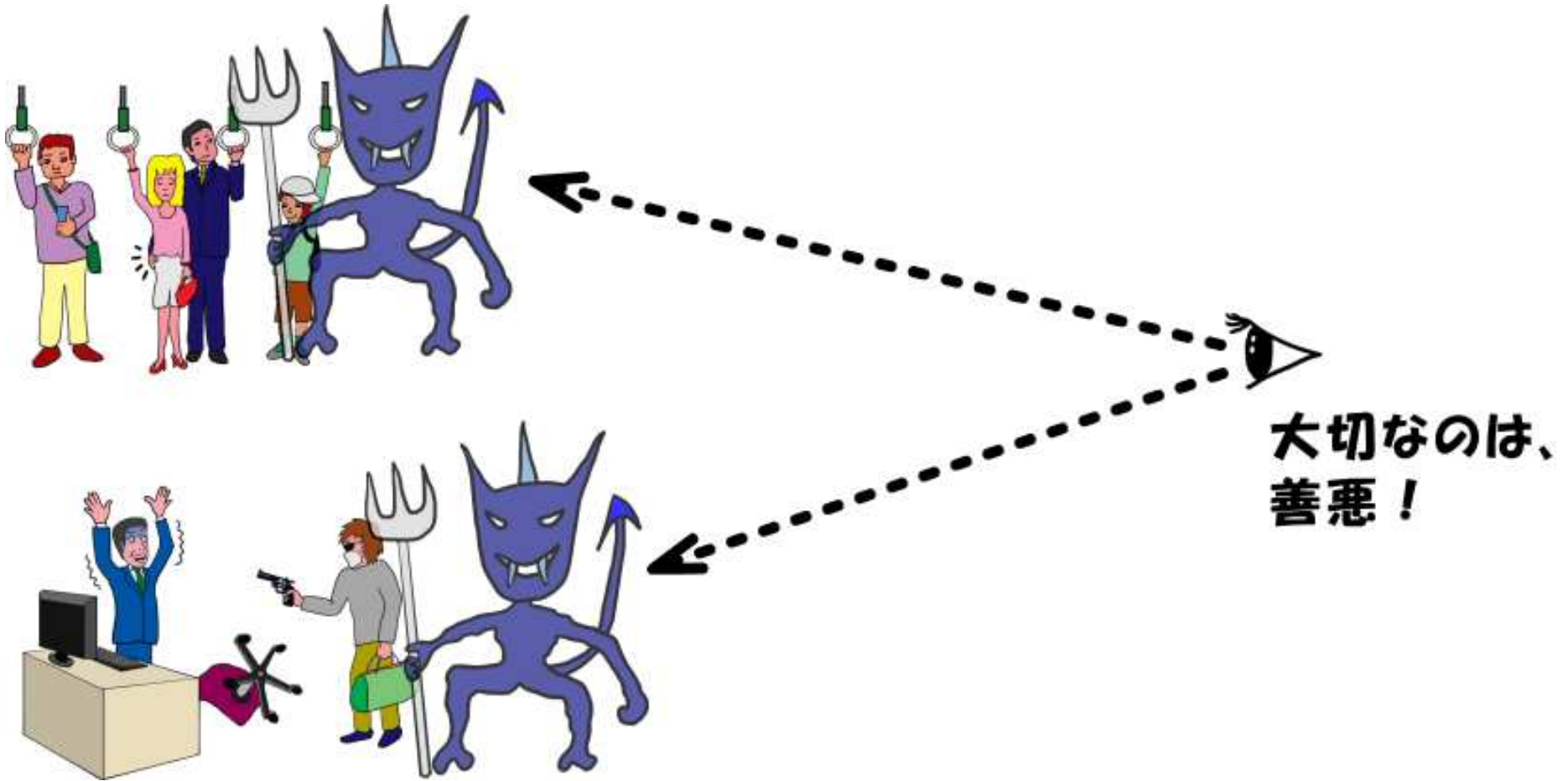
いかがですか？ ここまでは、あなたが持つ**罪**のイメージと近いでしょうか？

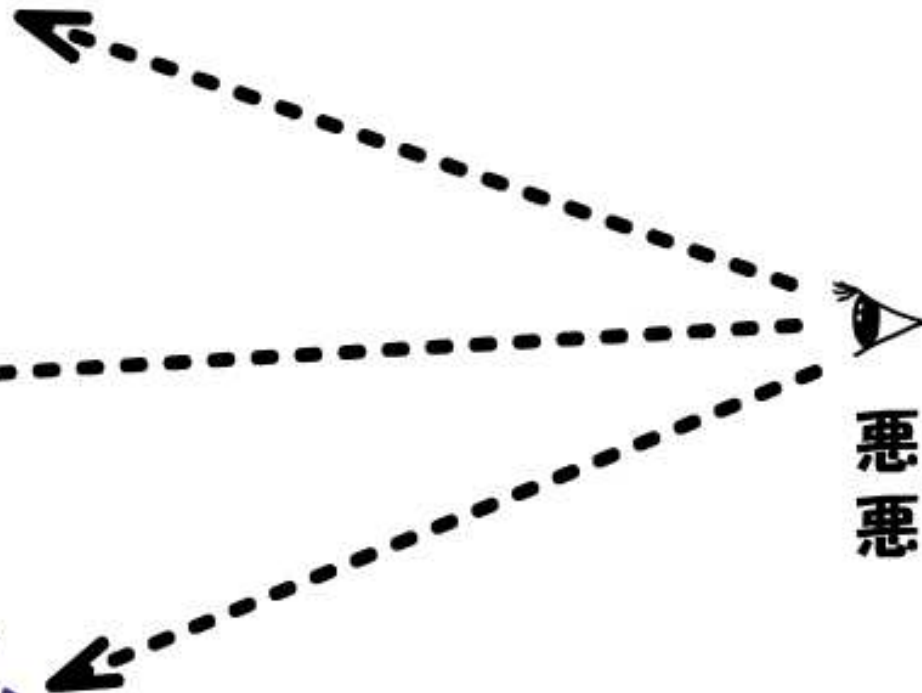
次は**罪**と善悪の錯覚²との関係です。もし、**罪**が悪の積み重ねというイメージなら、善悪の錯覚も積み重ねられるかもしれません。



²注 善悪の錯覚の詳細については、善悪中毒なり、平和の絵本をご参照ください。

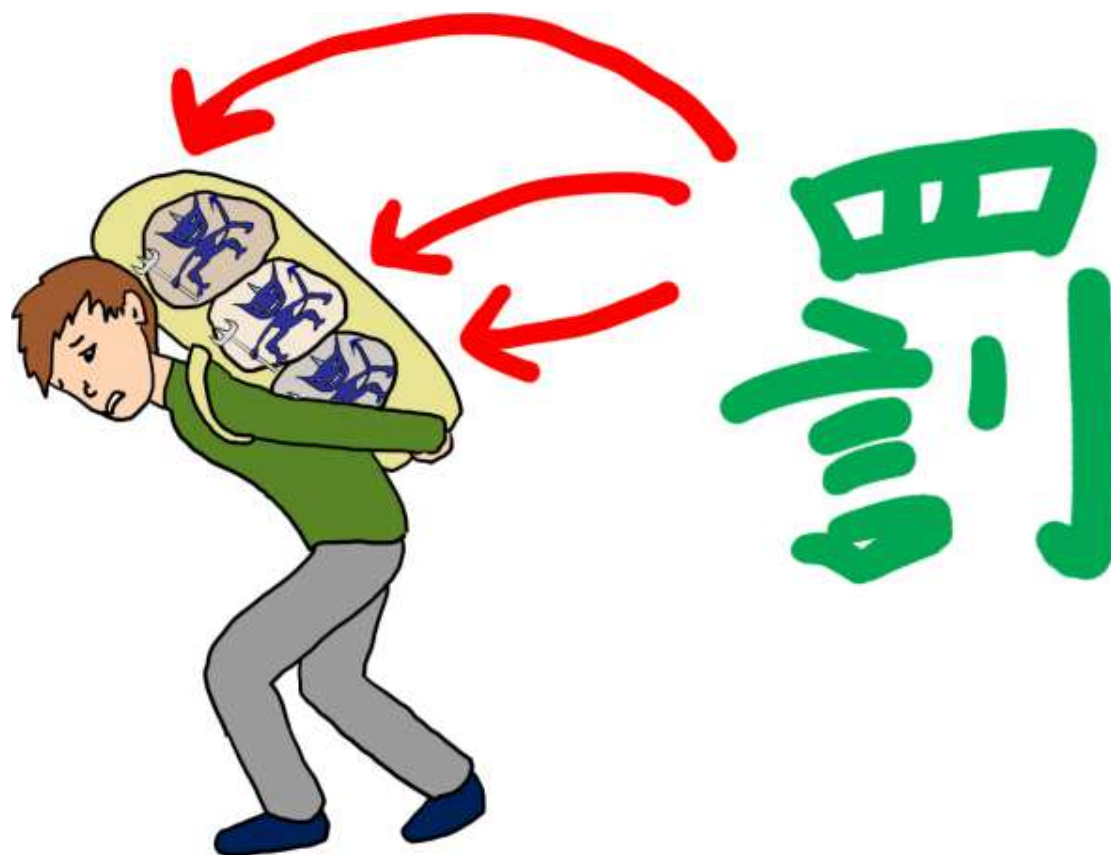
ここでいう錯覚とは、善悪の二分類に集中して、異なる事象（とその詳細）を、類似のものとして見てしまうということです。





悪いことは
悪いんだ！

次は**罪**と**罰**との関係です。**罰**は**罪**に対して下すものというイメージも、多くの方がお持ちですね。



その場合、**罰**にもまた善悪の錯覚が引き継がれる可能性があります。

つまり、**罪**を**罰**する時、具体的な**罪**の中身は、見えにくくなるかもしれないということ
ことです。



はい。
彼は何の
罪を犯した
のですか？



おい、新人。
ここが重罪人用の
監獄だ

知らん。
とにかくすごく
重い**罪**だよ

改めて考えると、原因も事象も異なる**罪**への**罰**が、全て一緒って不思議に感じることはありませんか？³

罪名	刑罰
恐喝罪	10年以下の懲役
詐欺罪	10年以下の懲役
特別背任罪	10年以下の懲役
覚醒剤所持	10年以下の懲役
窃盗罪	10年以下の懲役
強制わいせつ罪	10年以下の懲役
拳銃など不法所持	10年以下の懲役
有印公文書偽造罪	10年以下の懲役
虚偽告訴罪	10年以下の懲役
児童買春等目的の人身売買等	10年以下の懲役
電子計算機使用詐欺罪	10年以下の懲役

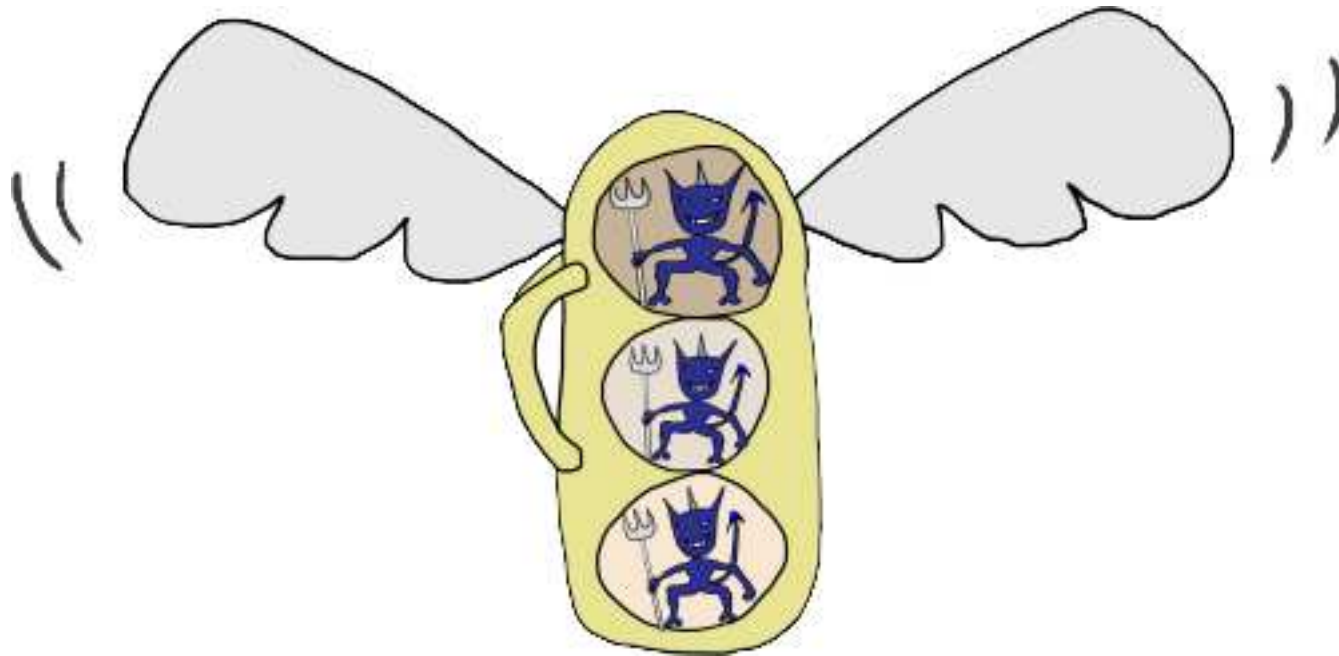
³ 表は正確なものではありません。

罪の種類や原因で、対応を変える必要は無いのでしょうか。



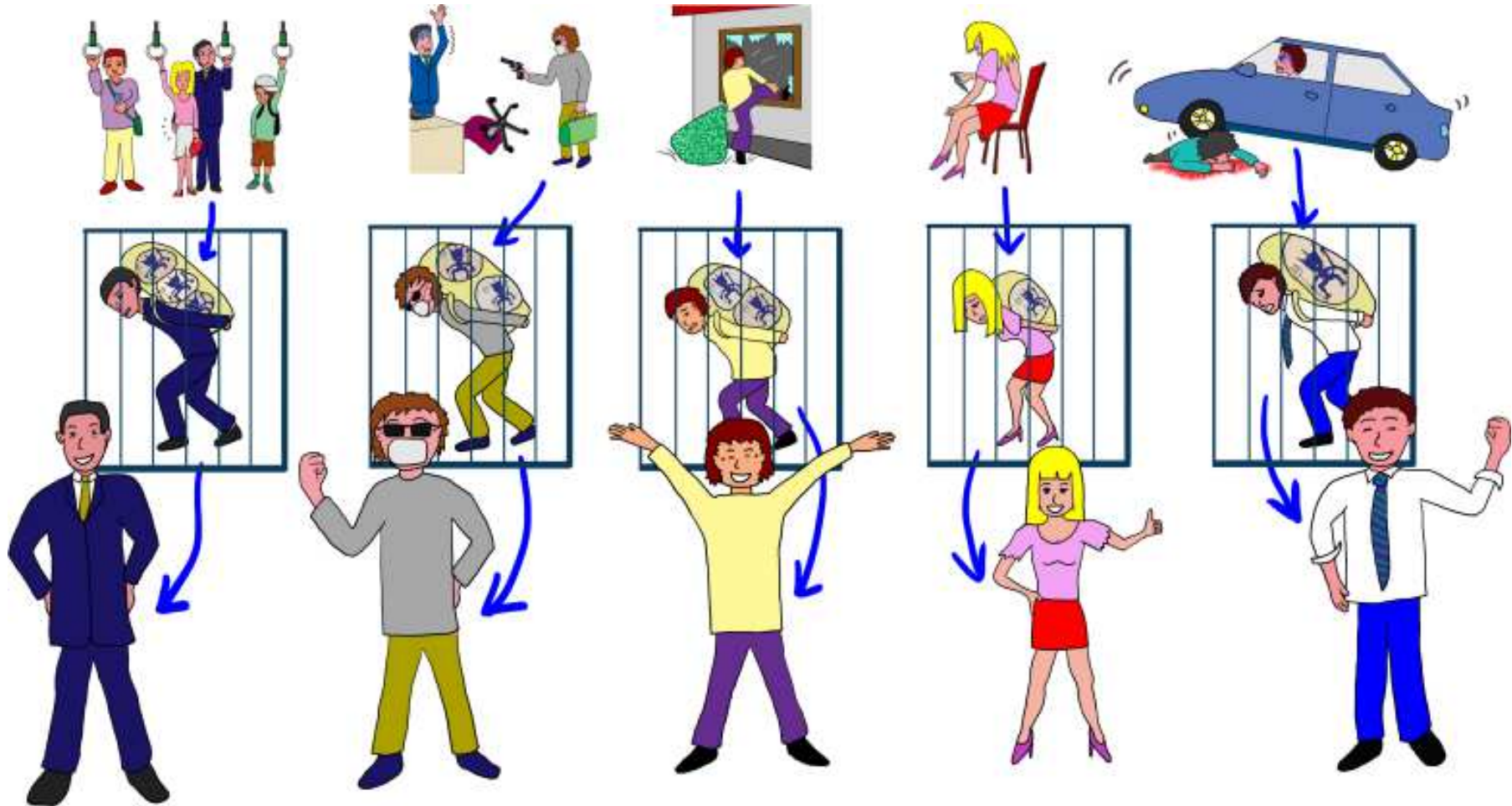
重要なのは、罪を罰して「償わせる」ことなのでしょうか。

では「**罪**を償う」という言葉のイメージについて考えてみましょう。



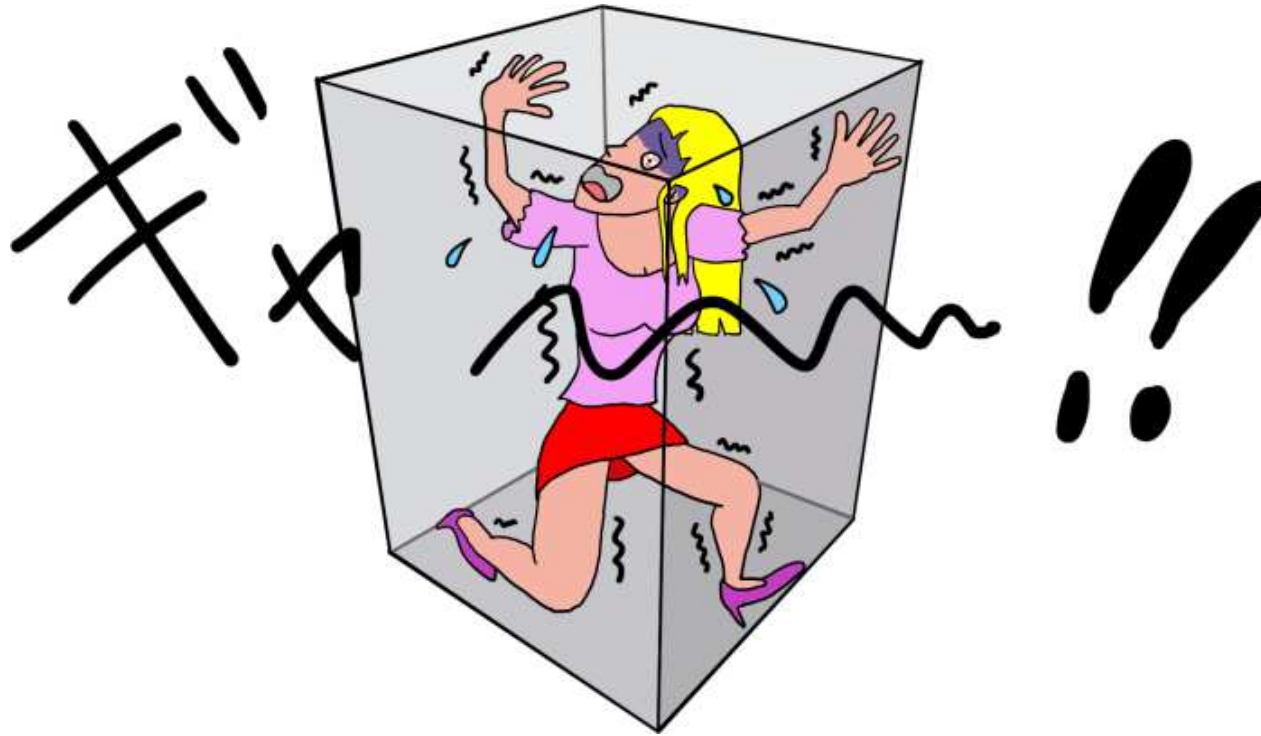
罪の償いのイメージは、償えばその分**罪**が軽くなる。十分に償えば**罪**が消える・許される。**罪**が消えれば罪人は普通の人に戻る、でしょうか。

では具体的に、刑務所に犯罪者を閉じ込めると何が普通が変わるのでしょうか？



痴漢も強盗犯も麻薬中毒者も、自動的に普通の人になるのでしょうか？

収監は社会からの隔離であり、**罰**の恐怖は再犯防止に有効なこともあるでしょう。
でもそれは犯罪の原因解決や被害者救済や犯罪者の更生ではありません。



閉所恐怖症は増えそうですが・・・

実際、**罪**の償いという言葉に関して、明確なイメージをお持ちの方は、少ないかもしれません。よく分からない**罪**の償いのために**罰**するのなら、**罰**の目的も結局は何なのか、よく分かりませんね。



目的が不明なら、その効果も見えません。効果が見えなければ、たとえば再犯防止の工夫などもなかなか進まないかも知れません。

さらに、**罪**には別の錯覚効果もありそうです。それは人への攻撃を、あたかも**罪**への攻撃のように錯覚するというものです。



人に対して残酷なことをするのは辛いものです。**罪**のイメージを利用した錯覚は、この辛さを軽減するかも知れません。

もちろん、人々が持つ**罪**のイメージは全く同じではありません。それでも**罪**のイメージに邪魔をされ、大事なこと（**罰**の副作用、犯罪の原因解決、被害者の救済など）が見えなくなっている人は、きっと少なくないでしょう。



罪という言葉、
少し使うのをやめてみませんか？

あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2017